

## 室内環境と空調機

矢田 修

日立アプライアンス株式会社  
〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1

学会員でありながら普段の仕事では「室内環境学会」になかなか参加できず、いざ文章を書こうとすると会員の声に掲載していただくような内容がなくて困ってしまいました。そこで、現場で見聞きしたことやお客様の声を紹介し、今後の学会にお願いしたいことについて少し書きたいと思います。

皆様ご存知の通り、現代人は、その90%以上の時間を室内空間で過ごしているといわれています。この室内空気に大きな影響を与えているものには、まず建築そのものがあり、例えばシックハウスの原因物質と疑われている幾つかの化学物質や、粉塵やカビなどの微生物やダニ等による健康影響が問題視されています。また、室内に設置される空調機は室内空気を循環して浮遊する塵埃を捕捉し、汚れが機内に蓄積していきます。特に冷房の時期には、ドレン水によって機内は多湿な環境となり、捕捉蓄積された塵埃に含まれる微生物が繁殖し、カビ等が室内へ拡散したり臭気やアレルギー症状を起こしたりすることが懸念されます。

あるオフィスの空調機のメンテナンスに立ち合った際の事です。オフィス内は休日であるにもかかわらず部屋自体にかなりの刺激臭が残り、しばらくそこにいると頭痛やめまいがして気分が悪くなったことがあります。また別のオフィスでは、机上にタバコの吸殻がそのまま残されており、分煙などは全くなされていないという状況です。タバコの臭いが気になるのかお香を焚いてその臭いを消そうとされていました。さらに隔離された喫煙室では、壁面にヤニ等が付着して褐色に色づき、知らずにもたれかかるとワイシャツが黄色く汚れてしまいます。中小規模のオフィスビルにおける室内環境はいまだ改善されていないなあというのが印象です。仕事始めの月曜日には空調の吹出空気から排水口のような臭いがするという話。デパートや病院等の人が集まる場所に出かけると、何故だか必ず風邪をひいてしまうというお客様の声等々。

このように室内環境と空調機との関係に関連する

事象をよく見聞きするのですが、学術的な裏づけや情報は非常に少ないように感じます。生活者に快適な環境を提供するためにはやはりその実態を知り、多くの研究者やメーカ技術者がよりよい「室内環境」をつくるために議論が重要です。「室内環境学会」は研究発表の場としてだけでなく、そのような生の情報について懇談できる場にしていただければと思います。

そのためにも、学会誌やニューズレターの定期的な発行は是非必要であり、会員間の交流だけでなく一般者とも交流し、学会活動内容や「室内環境」に対する学会の考えを広く知らしめることが重要だと考えます。また、学会に参加される若手研究者の活躍を大いに期待したいところです。「室内環境学会」をさらに発展させ、生活者の生活の質を向上させるために、微力ながら努力して参りたいと思います。

最後に執筆の機会を与えて下さった室内環境学会の編集委員の方々と、稚拙な駄文を最後まで読んで頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。